

道総研

(担当：調査研究部 呂 0162-32-7166)

図 1. 北海道北部沿岸における底層水温 (°C) の分布. 2021~2025 年 4 月.

3 魚群分布調査の結果（オホーツク海）

計量魚探で得られた1海里あたり魚群反応量の分布を図2に示します。今年の調査では、枝幸～紋別沖において魚探反応量は前年より多く、100～200mを中心にスケトウダラとみられる魚群反応が確認されました。北見大和堆の北側海域でも、スケトウダラとみられる魚群反応が確認されましたが、反応量は前年より減少しました（図3）。

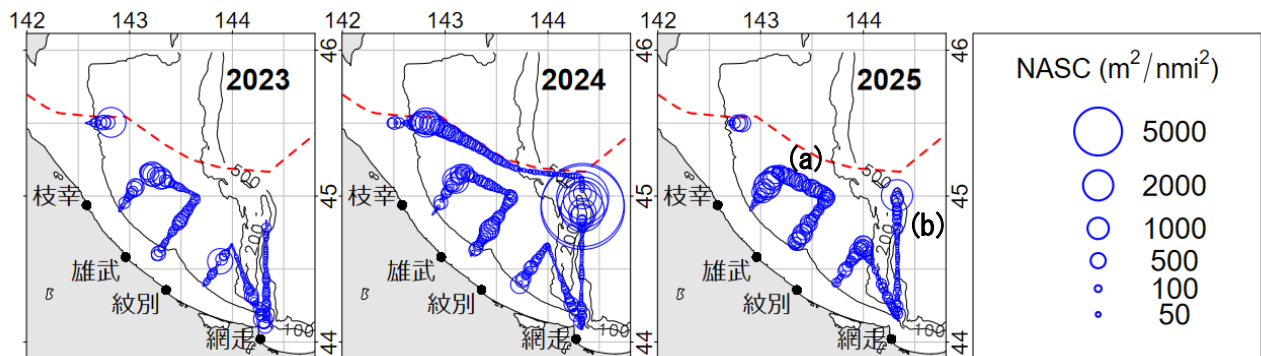


図2. 北海道沿岸オホーツク海における魚群反応量 $NASC$ (m^2/nmi^2) の分布. 2023～2025年4月.

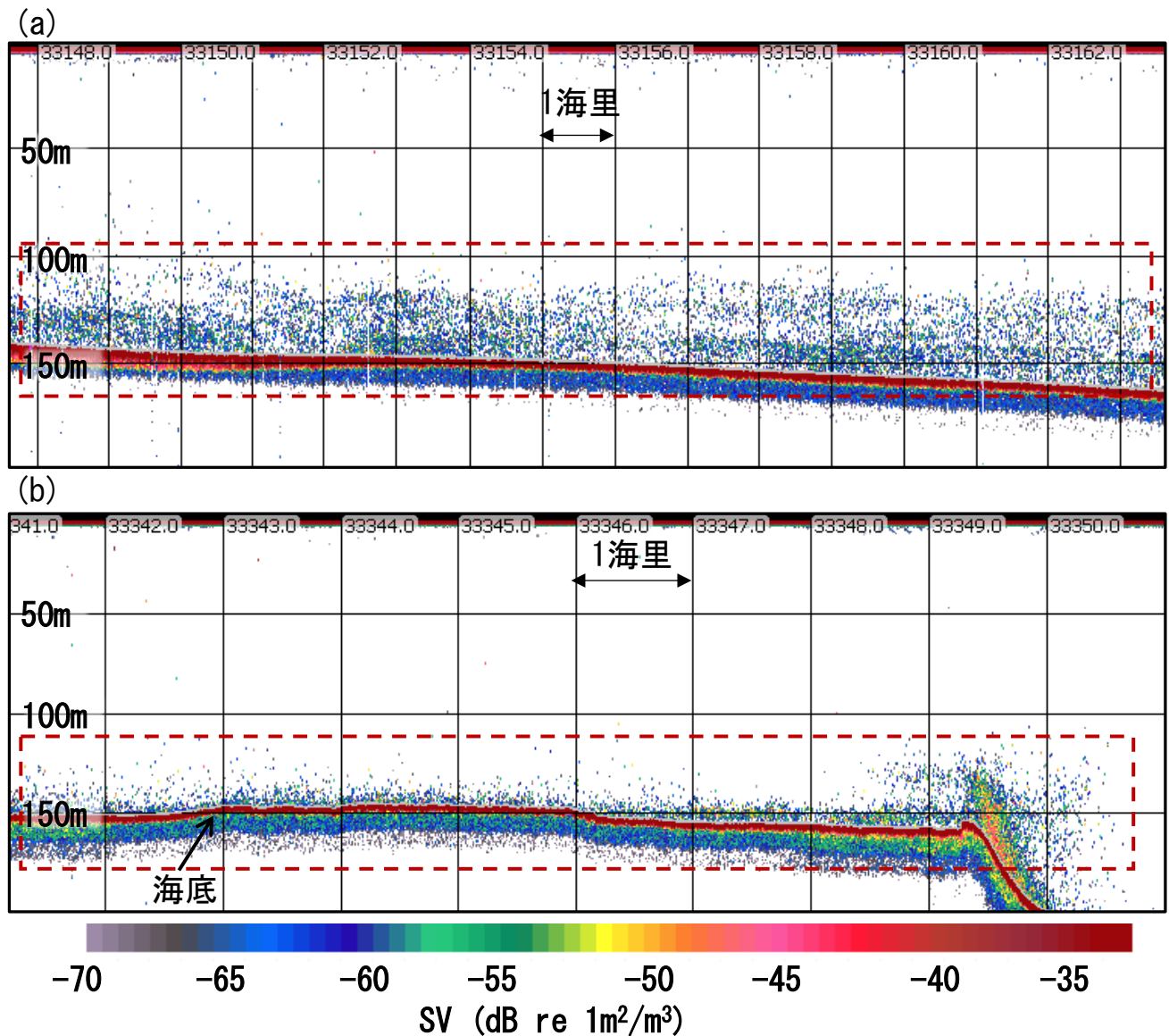


図3. 枝幸～雄武沖（a, 2025年4月10日21:30頃）および北見大和堆の北側海域（b, 2025年4月11日19:50頃）で観察された魚探反応（赤破線枠内：スケトウダラ）。

4 魚群分布調査の結果（日本海）

計量魚探で得られた1海里あたり魚群反応量の分布を図4に示します。昨年調査と比較すると、武蔵堆北部や天売・焼尻沖の魚探反応量は増加し、水深130～200mの海底付近にスケトウダラとみられる魚群反応が確認されました。また、小樽沖でも、水深200m以深の深度200～450mにスケトウダラとみられる魚群反応が確認され、前年より反応量は増加した一方、魚探反応の分布水深は前年より約100m深いことが確認されました（図5）。

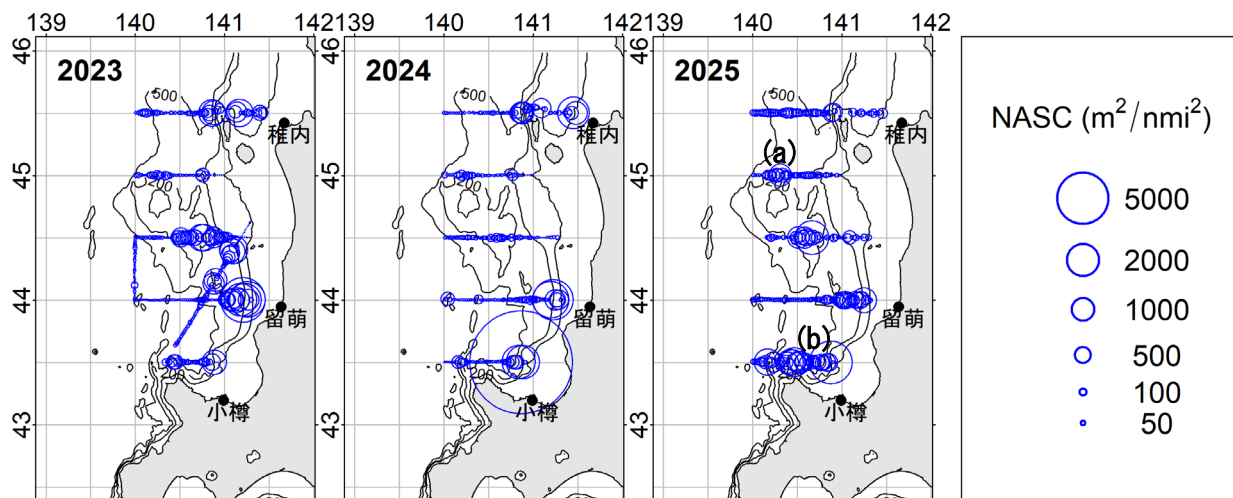


図4. 北海道西部日本海における魚群反応量 $NASC(m^2/nmi^2)$ の分布. 2023～2025年4月.

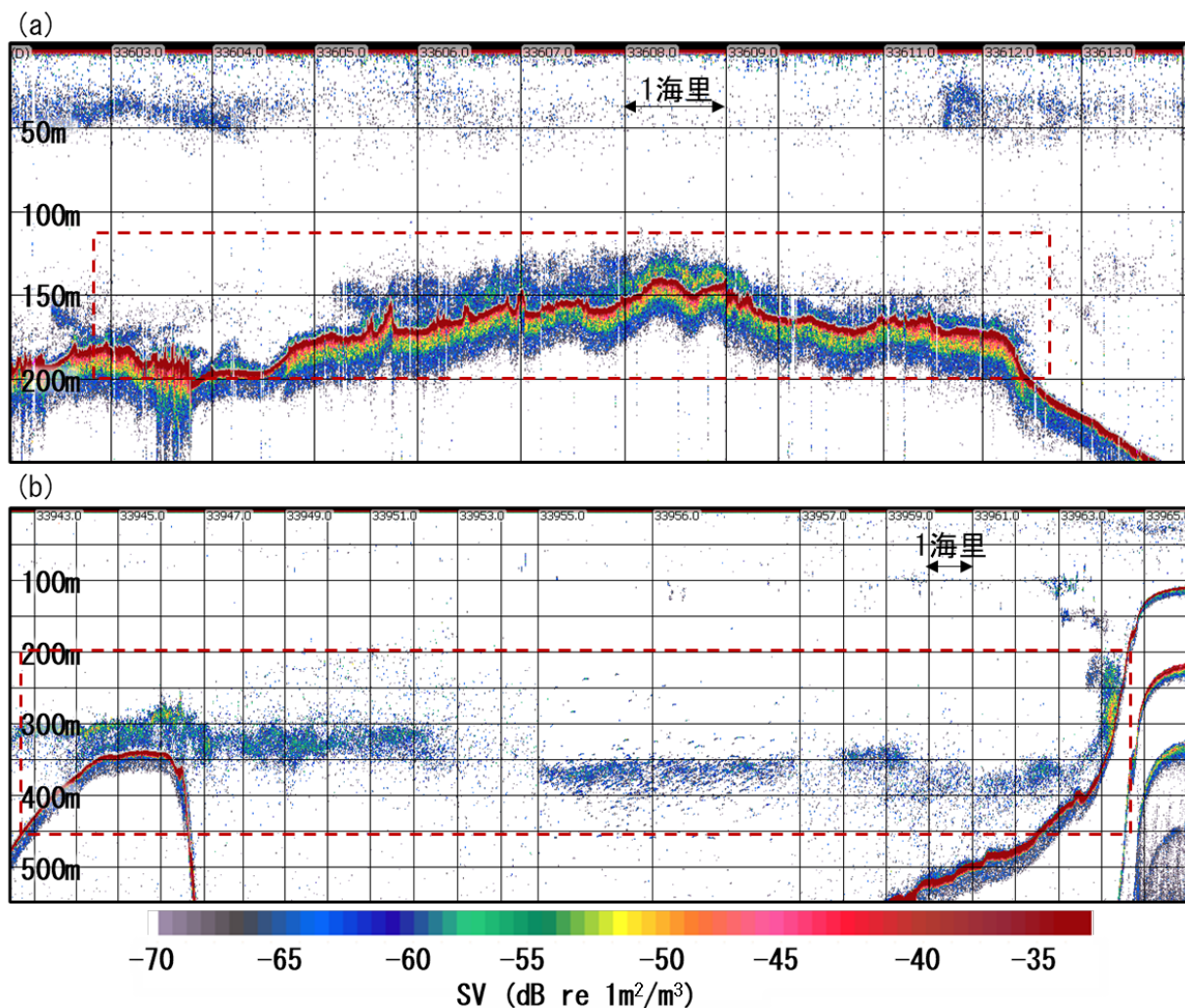


図5. 武蔵堆北部（a, 2025年4月13日1:00頃）および小樽沖（b, 2025年4月15日16:00頃）で観察された魚探反応（赤破線枠内：スケトウダラ）。